

宮川の風 第78号

平成31年3月1日（金）発行

宮川小学校校長室からのたより

今年ももうすぐ3月11日がやってきます。平成23年3月11日に起きた東日本大震災の記憶は、今も人それぞれ違う形で残されていると思います。もう8年が経過します。

新聞などでは、大震災の様子やその後の復興の様子などを特集するものもあるようです。今一度、記憶を鮮明に呼び起こして、犠牲者のご冥福を祈り、復興に尽力している人たちにパワーを送り、当たり前の日常に感謝する気持ちを大切にしたいと思います。

この宮川の風でもご紹介しましたが、復興の中でさまざまな感動のエピソードがあり、生きる勇気や希望を感じさせてくれました。そこには、人をいたわる気持ちから自分にできる何かを探し、突き動かされるように行動した人たちもいたのだと思います。

「思いをいたす」という言葉を目にした文章がありましたので、ご紹介します。裏面の文章をお読みください。

おそらく人間の心にある「善意」の奥底にある本能のようなものが、ごく自然な行動となって表れる感情が「惻隠」なのかなと思います。私たちの日常生活の中にもきっとあるのだと思います。損得ではなく、ボランティアでもない、非常に特別なものであるのに、ごく自然なもの。言葉で表現するのは難しいですが、みなさんもそのような感情になったことがあるでしょうし、そのような行動に助けられたことがあるかもしれません。

大震災後に世界中から賞賛された日本人の行動は、この「惻隠」の情によるものが多かったのではないのでしょうか。

人間ってすばらしいと思います。日本人でよかったと思います。もちろん外国の人たちも同じ感情があるのでしょうか。

吹奏楽部定期演奏会

皇徳寺中学校吹奏楽部と宮川小職員バンドも出演

3月3日（日）は、吹奏楽部の定期演奏会が行われます。賛助出演として、皇徳寺中学校吹奏楽部のみなさんと、今回初出演となる宮川小職員バンドも登場します。宮川小吹奏楽部の演奏をメインに、他の演奏もお楽しみいただきたいと思います。

午前10時から始まります。

ある日のできごとから



その1

最近、廊下や階段ですれ違う子どもたちの中に、会釈やあいさつをする子が増えてきたように感じます。通りすがりに頭を少し下げて通る子どもや「こんにちは」と言って通る子どもたちです。こちらも頭を下げて子どもたちの横を通り過ぎるようにしています。少しのことではありますが、やはり気持ちがいいものです。

「こんにちは」は、お客さんにするあいさつではあるのですが、学校は学習の場ですので、習慣づけるためにはよい取組だと感じています。

その2

児童用の玄関の掃除を担当している子どもたちの中には、昼休み終了の少し前から掃除を始めている子どもたちがいます。靴箱の前に敷いてあるマットを移動し、一人一人の靴を取り出しながら棚に溜まった砂を掃き出します。そしてまた、靴を棚に戻すのです。

ある日、靴箱掃除の横を通りかかった時、一人の女の子の様子が目に飛び込みました。その子は、靴箱に戻した靴のかかとを一つ一つ丁寧に揃えていたのです。両手を使って、靴箱の淵にぴったりと合わせるように、丁寧に作業をしていたのです。

目立たないところでこんなに素晴らしい行動ができることに感動しました。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）